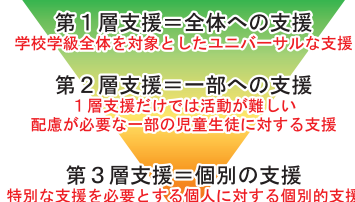


「多層的な支援システム」の第2層・第3層の充実

「多層的な支援システム」は、全体に効果的な指導や支援（＝第1層支援）を行いながら、データをもとに児童生徒の反応をつかみ、**効果が見られるよう支援方法や指導方法を変えていく**ことです。また、個から集団へと階層的なアプローチ（第1層・第2層・第3層）をすることで、対象を絞り込んでいくことです。

多層的な支援システム



多層的な支援を充実するための実態把握のポイント

- ①客観的なデータを用いること
例えば学習面であれば単元テストの結果を用いて到達度をみる、行動面であれば具体的な行動を記録したものをみる。
- ②第1層支援が有効であったか振り返りをした上で第2層、3層支援を検討すること
例えば単元テストが学級全体で低い場合、まず、授業で第1層支援ができていたかを振り返る。（全体へのわかりやすい指示・指導ができていたか、ユニバーサルデザインを取り入れた授業になっていたか、等）

この子は第1層、この子は第2層…と決めるものではありません。「国語は第1層支援で理解できるが、算数では第2層支援が必要」といったように**活動内容や成長段階によって、どの層の支援であるか変わります**。
以下は第2層・第3層の充実を図るための具体例です。

第2層支援の例 机間指導等で「実態を観察」し該当する児童生徒へのフィードバックを増やす

ポイント1

児童生徒の活動を
修正する



場面：（算数）かけ算九九

- 例①問題に取り組めない
机間指導の際に行動を促す声掛けを行う。
「どこが難しいかな。」「先生と一緒にやってみようか。」
- 例②習得しきれていない
九九表を用いて「これを見てね」と**活動を修正する**支援を加える。

ポイント2

児童生徒の活動を
称賛する



場面：（社会）江戸時代と明治時代の変化を比較

- 取組がめあてとずれてしまうことが多い児童生徒がめあてに正対して取り組めた際には、**結果や作成の過程を褒めて定着を促したり、価値付けたりする**。
「△△の資料を使っていて変化が分かりやすいね。」
「〇〇の部分がとても伝わりやすい内容だね。」
「それでバッチリ！」（行動の強化のための肯定的な称賛）

第3層支援の例 該当する児童生徒の実態に応じて個別に目標の修正や課題の選択肢を用意する

ポイント1

課題や支援の
選択肢を用意する



場面：（国語）物語文の要点の説明

- 例①要点をまとめられない
記述式でまとめるのではなく、穴埋め式も用意し**選択できる**ようにする。
- 例②説明できない
説明内容をノートやタブレットに打ち込み、発表以外の形を**選択できる**ようにする。

ポイント2

困難の状況を
チームで分析・支援する



場面：担任だけでは事前の支援の準備が困難

- 個人だけではなく、**複数の視点で多面的に検討するため、チームでも対応**していく。例えば、同じ教科を担当する教員や、特別支援教育コーディネーター、管理職と困難の情報を共有して、支援策を考えたり、教材の準備をししたりする。
「サポートミーティング」を取り入れるのも効果的である。
（第1層支援の例の二次元コード⑥参照）

第1層支援の支援を広げることで、個別の支援を必要とする第2層・第3層の児童生徒へ必要な支援が届くようになります。そのための具体例を示してあります。

▼第1層支援の例→下記バックナンバー参照

年度	ページ	戸田市 指導の重点・主な施策	二次元コード
H30	11	授業のユニバーサルデザイン化	①
R2	11	児童生徒の「気になる行動」へのアプローチ	②
R3	10	ポジティブな行動支援（PBS）	③
R4	10	インクルーシブ教育の充実に向けて	④
R5	5	多様な教育的ニーズへの対応	⑤
R6	9	個別最適な学びを実現するための「多層的な支援」の実践例	⑥

